

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2020年 5月 7日

事業所名:児童デイサービス フューチャー

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースとの関係で適切である	イベント内容やその日の子ども達の人数、高学年になるにつれて体格も大きくなるので場合によっては狭く感じてしまうかもしれない	狭くもないが十分に広いとは言えないと思う。	物の配置や余計な物を片付ける等まずは簡単にスペースを広げられることから取り組む。
	2 職員の配置数は適切である	保育士や児童指導員等規定に沿った人数は常に配置をおこなっている。	専門の資格や経験を積んだ支援員がどのくらい配置されているのかわからないがいつもよく見て頂いている。	保護者様に分かりやすく再度お伝えし、安心して利用ができるよう、施設全体で取り組む。
	3 生活空間は、本入に力がかつやす、構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	階段、床をバリアフリーにする等、利用する子ども達に怪我がないようにしている。	出来ている所と出来ていないところがある。二階へ上がる階段が少し危ないように思う。足を踏み外すと怪我をする危険があるので気をつけてほしい。	どのような構造が良いのか分からないが一人一人にあったスペースを考え怪我や事故のないようにする。
	4 生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	清掃は毎日行うことはもちろんのこと定期的に洗濯、消毒を行っている。		普段から清潔に保ちインフルエンザなどといった感染症が広がらないように気をつける。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	月に1回職員会議を開き業務内容や子ども達への支援の見直し、イベントの検討等を話し合っている。		社員、非常勤は関係なく会議等は引き続き全員で行い、反省や次の目標を決めていきたい。
	2 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げている	第三者ではないが、定期的に大阪・兵庫の事業所間での交流を行い情報の交換、業務についての意見を出し合っている。		業務内容がマンネリ化することがないように互いの事業所内での取り組み、対応を交換しあい少しでも良い支援ができるようにする。
	3 職員の資質の向上を行うために、研修機会を確保している	権利擁護や虐待防止等、子ども達に対する研修は積極的に参加するように職員間で徹底している。		必要だと思う研修は引き続き受講を行い支援員の能力向上に努めたい。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	モニタリングを作成の上、子どもの支援が必要とされているのかを分析し計画を作成している。また作成の際は保護者様の思い、本人の思いを出来るだけ反映させた物を作るよう心掛けている		支援員の考えに固執せず幅広い支援方法があることを理解し常に本人にあった支援を模索する。
	2 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	児童発達管理責任者だけでなく所属している職員全員で話を行い支援計画を作成するようにしている。		作成は引き続き児童発達管理責任者を中心とし事業所全体で内容を考え支援を行っていく。
	3 活動プログラムの立案をチームで行っている	イベント等は職員間での相談、下見の行った上で決定している。その後希望票として作成し保護者様に配布している。		一人の判断では固執しがちになりやすいので全体で考えることで活動の幅を広げていく。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2020年 5月 7日

事業所名:児童デイサービス フューチャー

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 t (続き)	4	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	固定しないように気をつけてはいるが内容がどうしても固定になりがちがある所がある。	記載なし	一人での判断では固執しがちになりやすいので全体で考えることで活動の幅を広げていく。
	5	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	児童発達管理責任者だけではなく所属している職員全員で話を行い支援計画を作成するようにしている。	いつも色々と考えて頂いている。	作成は引き続き児童発達管理責任者を中心とし事業所全体で内容を考え支援を行っていく。
	6	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	SNS(LINE)を活用している		SNS(LINE)を活用している
	7	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	SNS(LINE)や場合によっては書類を作成し各支援員が必ず目を通すようにしている。見た時は書類に印鑑を押してもらい全員が確認したか分かるようにしている。		SNS(LINE)の活用や書類作成等、職員全員が必ず情報が受け取れる環境を整える。
	8	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	日報の作成はもちろんのこと定期的に職員間で集まり支援内容について話し合っている。改善がある場合は改めて計画書を作成し保護者様に配布、説明を行っている。		引き続き定期的な職員会議の実施や支援内容の保存・検証・改善に努める。
	9	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	1か月、3ヶ月といった周期で計画を見直し、各利用者にモニタリングを行っている。計画そのものに変更がある場合は再度作成の上、保護者様にサインをいただいている。		必要に応じての計画の見直しや作成等は今までと変わらずに行ってきたい。
	1	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	現段階では相談支援員による担当者会議をする回数自体が少なく各事業所が集まって話をする機会がない。		支援会議の開催を促し、各事業所と連携をし一人一人に応じた支援を行っていきたい。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2020年 5月 7日

事業所名:児童デイサービス フューチャー

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者	2	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や母子機関と連携した支援を行っている	現段階では各機関との連携が少ない	連携機関との会議の開催、普段でも連絡がつながるような関係を創り上げたい。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重心身心障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている。	現在、医療的ケアが必要な子どもや重心障がいのある子どもを支援していない為回答には適さない	
	4	(医療的ケアが必要な子どもや重心身心障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力機関等と連絡体制を整えている	現在、医療的ケアが必要な子どもや重心障がいのある子どもを支援していない為回答には適さない	
	5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	交流そのものが少なくどうしても事業所間だけの支援になっている所がある。また、個人情報観点から情報提供をしてくれる場所が少ない。	担当者会議の開催等、普段でも連絡がつながるような関係を創り上げていきたい。
	6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	交流そのものが少なくどうしても事業所間だけの支援になっている所がある。また、個人情報観点から情報提供をしてくれる場所が少ない。	担当者会議の開催等、普段でも連絡がつながるような関係を創り上げていきたい。
	7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	研修等は各職員に率先して受講するように勧めている。また受講の際は報告書を提出の上、受講できなかった者も目を通せるようにしている。	必要だと思う研修は引き続き受講を行い支援員の能力向上に努めたい。
	8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	現在、利用している児童がいない為回答には適さない	

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2020年 5月 7日

事業所名:児童デイサービス フューチャー

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
との連携	9 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	協議会等は各職員に率先して参加するように勧めている。		協議会等は各職員に率先して参加するように勧めている。
	10 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	定期的に保護者様との面談や送迎時に自宅や学校での様子を聞いている。		保護者様だけではなく学校等と協力を行い本人にあった支援を展開する。
	11 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペア・トレーニング等)の支援を行っている	保護者様からの要請があれば実施を行っている。		こちらから無理に進めていくのではなく保護者様からの要請があれば実施を行う。
	12 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	送迎や面談時に必ず児童発達支援管理責任者が同席し直接説明するように徹底している。		直接説明することは変わらず、計画内容は保護者様にもわかりやすい表現を使用する。
	13 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から発達支援計画の同意を得ている	現在、利用している児童がいない為回答には適さない		
	1 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	定期的に保護者様との面談や送迎時に自宅や学校での様子を聞いている。	色々と相談にのって頂いている。個別に落ち着いた話す機会を設けて欲しい。	個別に面談を設ける等、保護者様の相談、対応を実施していく。
2 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	保護者会の開催は行っていない。	共働きの世帯が多く参加できないことの方が多いため特に開催されなくても問題がないように思う。	定期的に土曜日イベント等を通じて保護者様との関係を今以上に深めていきたい。	
保護者	3 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切対応している	電話対応や自宅訪問を行い、保護者様に対するケアや児童の相談を受け持っている。なおこちらでの対応が難しい場合は関係各所に連絡を行いスムーズに物事が運ぶようにしている	記載なし	小さなこともでも常に職員で情報を共有し、施設全体の能力向上に努めたい。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2020年 5月 7日

事業所名:児童デイサービス フューチャー

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
への説明責任等	7 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	毎月保護者様に配布の上、参加の有無を聞いている。またイベント時の写真はLINEを通じて各保護者様に提供している。		イベント等の写真はこれからも定期的に渡していけるようにしていきたい。
	5 個人情報の取扱いに十分注意している	同意書を作成の上、得た情報は鍵付き書庫に保管をする等気をつけている。また第三者に提供する場合は必ず保護者様に伝えることを徹底している。	記載なし	個人情報の取り扱いは引き続き注意を行い、流出しないようにする。
	6 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の為の配慮をしている	絵カードや手紙の内容を漢字で表現するのではなくひらがな等を使って本人にもわかりやすく説明しているように行っている。		その都度、対応を考え、本人や保護者様が分かりやすい方法を探す。
	7 事業所の行事に地域住民を招待する等地位井に開かれた事業運営を図っている。	夏祭りの開催、餅つき大会の実施、ふれあいの集いといった地域の方々との交流をしている。		まだまだ地域交流には程遠くと考えている。色々なことができるようこれからも積極的に交流する機会を増やしていく。
	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	マニュアルを作成の上、保護者様に配布を行っている。職員間での話をする機会を設け早めの対策を取るようにしている。	記載なし	保護者様はもちろんのこと保健センターや学校、市役所といった関係機関との関係をもう少し深めていきたい。
	2 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他の必要な訓練を行っている	定期的な避難訓練の実施や防災センターへの来所、または決められている年に1回の大規模な避難訓練を行っている。	記載なし	訓練では出来るが実際に起こってしまうと職員や子ども達の行動が予測できないことが多い。とっさの行動がきちんとできるように練習を重ねる。
	3 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	事前に保護者様に向けてアンケートを配布し何を服薬している等を確認をしている。記載がなくても必ず保護者様に確認をしている。		今後も事前に確認することを徹底していくよう努めていく。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2020年 5月 7日

事業所名:児童デイサービス フューチャー

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	4 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	事前に保護者様に向けてアンケートを配布し何がアレルギーなのか確認をしている。記載がなくても簡単に考えるのではなく必ず保護者様に確認の上、食べて頂くようにしている。		今後も事前に確認することを徹底し、大丈夫だと簡単に決めてしまわないように注意を行う。常に注意を行い、防止に努めていく。
	5 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	忘れ物や怪我等は必ず作成し他の職員にもわかるようにしている。またあまりにもヒヤリハット回数が多い場合は指導の上、業務から外す等をしている。		引き続き身体拘束は行わない。
	6 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	虐待防止の研修に赴くことや、職員間での話し合いを行い常に確認をしながら業務にあたっている。疑わしい場合その都度指導を行い保護者様に謝罪の上、適切な処置を取るようになっている		研修や職員での話し合いの場を設けどういった行動が虐待にあたるのかなに子どもたちにとって過ごしやすい環境となるのかを常に模索する。
	7 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	身体拘束は基本的に行わない。どうしても考えない場合は保護者様と相談の上、同意書を作成しサインをもらうようにする。ただし最終的手段である事を職員に周知、徹底し軽率に行わないように指導している。		引き続き身体拘束は行わない

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2020年 5月 7日

事業所名:児童デイサービス フューチャー

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
----	--------	-----------------	--------	--------------------